

令和6(2024)年度決算と経営戦略収支計画比較

会計名 工業用水道事業

(単位:百万円、収益的収支は税抜表示、資本的収支は税込表示)

(1) 収益的収支

		計画額 A	当 初 予算額	決算額 B	B-A	備考
収 入	料金収入	491	492	521	30	・料金収入は、超 過水量の増による 増
	その他収入	94	365	345	251	・その他の収入 は、長期前受金戻 入の増加により増
	計	585	857	866	281	
支 出	人件費	56	49	45	▲ 11	・減価償却費は、 会計処理の見直し に伴い建設仮勘 定から本勘定に振 り替えた資産の増 加により増
	減価償却費	222	451	444	222	
	修繕費	46	101	98	52	
	その他支出	237	277	220	▲ 17	・修繕費は、修繕 計画の見直しによ り増
	計	561	878	807	246	
経 常 損 益		24	▲ 21	59	35	

剰 余 金 残 高	587		982	395	
-----------	-----	--	-----	-----	--

・平成28年度からの積み上げによる(剰余金の処分は考慮しない)。

(2) 資本的収支

		計画額 A	当 初 予算額	決算額 B	B-A	備考
収 入	借入金	0	0	0	0	・その他収入は、 太陽光発電設備 の増設工事に伴う 国庫補助金の増
	その他収入	0	9	11	11	
	計	0	9	11	11	
支 出	建設改良費	92	128	91	▲ 1	・借入金償還金 は、償還計画の見 直しにより増
	借入金償還金	70	91	90	20	
	その他支出	0	4	0	0	
	計	162	223	181	19	
差 引		▲ 162	▲ 214	▲ 170	▲ 8	

借 入 金 残 高	1,857		1,797	▲ 60	
-----------	-------	--	-------	------	--

経営指標による経営状況

	収益性				安全性		老朽化の状況		
	経営資本 営業利益率 ・経営資本でど れだけの営業利 益を上げたか で、高いほど良 好	営業収支比率 ・営業活動の能 率で、高いほど 良好	料金回収率 ・給水費用が、ど の程度給水収益 で賄えているか を表す指標	経常収支比率 ・経常的な企業 活動の効率性 で、高いほど良 好	流動比率 ・短期的な支払 能力で、高いほ ど経営基盤は安 定	自己資本 構成比率 ・総資本に対す る自己資本の割 合で、高いほど 経営基盤は安定	有形固定資産 減価償却率 ・償却対象資産 の減価償却がど の程度進んでい るかを表す指標	管路経年化率 ・法定耐用年数 (40年)を超えた 管路延長の割合 を表す指標	管路更新率 ・当該年度に更 新した管路延長 の割合を表す指 標
	(単位: %)								
令和2年度決算値	▲ 1.97	81.98	102.03	114.82	1,288.01	87.35	65.44	0.00	0.00
令和3年度決算値	▲ 3.45	72.43	93.06	109.26	1,363.28	87.60	66.55	0.00	0.00
令和4年度決算値	▲ 0.32	96.61	104.87	121.16	1,742.62	88.16	68.44	0.00	0.00
令和5年度決算値	▲ 0.32	98.54	104.82	121.12	1,949.46	88.62	69.99	65.53	0.00
令和6年度決算値	▲ 3.95	65.12	96.08	107.35	1,579.52	74.95	79.48	65.53	0.00
全国平均(令和5年度決算値)	—	101.82	106.76	112.45	599.10	74.30	56.74	54.73	0.52
説明	会計処理の見直しに伴い、減価償却費が増加したこと等により、事業の収益性を示す経営資本営業利益率、営業収支比率、料金回収率、経常収支比率の4指標は悪化したが、経常利益が確保できていることから経営状況は概ね健全であるといえる。 また、経営の安全性を示す自己資本構成比率、流動比率は、全国平均を上回っており、経営基盤は安定しているといえる。 一方、有形固定資産減価償却率では、会計処理の見直しに伴い、償却資産の減価償却が令和6年度に大きく増加し、7割を超えて進んでいるが、日頃の保守点検によって各資産の劣化状況を把握し、更新計画に反映させながら設備等の更新を進めることとしており、特に問題はない。 また、管路経年化率に対して管路更新率が低い、これについても、管路の劣化調査の結果や(公社)日本水道協会による研究結果等を基に標準使用年数(60年)を設定して更新することとしているため、特に問題はない。								

※ 営業収支比率: 単年度営業収支の黒字を示す100%以上が必要

※ 料金回収率: 事業に必要な費用を給水収益で賄えている状況を示す100%以上が必要

※ 経常収支比率: 単年度収支の黒字を示す100%以上が必要

※ 流動比率: 短期的に支払うべき債務を支払える現金等がある状況を示す100%以上が必要

工業用水道事業 目標の達成状況

1 財務面に係る評価

目標の達成状況

	【目標】 毎期、経常利益を確保し、健全な運営を確保します。
決算値	59百万円
評価	A
評価に係る説明	目標どおり経常利益を確保したため、A評価とした。

2 事業面に係る評価

(1) 目標の達成状況

	計画業務量 (年間基本供給水量)	設備の故障等による 計画外給水停止件数	需要拡大に向けた PR活動件数
目標値	R6年度 8,930千m ³	R6年度 0件	R6年度 100件
実績値	R6年度 8,974千m ³	R6年度 0件	R6年度 116件
評価	A	A	A
評価に係る説明	目標を上回る年間基本供給水量を達成したため、A評価とした。	目標どおり、計画外給水停止を発生させなかったため、A評価とした。	目標を上回るPR活動を行ったため、A評価とした。

(2) 取組実績等

※下線は新規事項

経営方針	令和6(2024)年度の実績	令和7(2025)年度の実績予定
ハード・ソフト両面の強化	○設備更新計画等に基づく設備の更新 ▶薬品注入設備更新工事(R5～R8) ▶<u>薬品沈殿池水中機械設備更新及び点検修繕工事(R5～R6)</u> ▶<u>取水場電動弁更新工事(R5～R6)</u> ○耐震化等の推進 ▶管路施設耐震化等検討会の開催(5月、10月、2月) ・管路更新の検討 ○感染症対策等の徹底とBCPに基づく業務継続体制の強化 ▶時差出勤やテレワーク、Web会議の推進 ○実践的な防災訓練 ▶災害対応訓練(地震)の実施(6月) ○応急復旧体制の強化 ▶工業用水道災害相互応援備蓄資機材表等の情報提供(関東地域における工業用水道災害相互応援に関する協定における幹事事業体)	○設備更新計画等に基づく設備の更新 ▶薬品注入設備更新工事(R5～R8) ○耐震化等の推進 ▶管路施設耐震化等検討会の開催 ・管路更新の検討 ○感染症対策等の徹底とBCPに基づく業務継続体制の強化 ▶時差出勤やテレワーク、Web会議の推進 ○実践的な防災訓練 ▶災害対応訓練 ○応急復旧体制の強化 ▶工業用水道災害相互応援備蓄資機材表等の情報提供(関東地域における工業用水道災害相互応援に関する協定における幹事事業体)
とちぎのものをづくりを支える産業基盤の整備	○企業ニーズの把握 ▶鬼怒工業用水協議会を開催(8月) ▶鬼怒工業用水受水企業担当者会議を開催(10月) ▶受水企業訪問の実施(1月～2月)	○企業ニーズの把握 ▶鬼怒工業用水協議会の開催 ▶鬼怒工業用水受水企業担当者会議の開催 ▶受水企業訪問の実施

経営方針	令和6(2024)年度の実績	令和7(2025)年度の実績予定
経費削減や需要拡大による財務基盤の強化	○ターゲットを絞った営業活動 ▶工業用水需要拡大に向けた検討班会議を開催(8月、12月、3月) ・<u>未給水の企業に対しアンケート調査を実施</u> ▶芳賀第2工業団地立地企業等に対する営業活動 ▶需要拡大に係る情報収集 ・新たな産業団地開発等の情報を収集し、工業用水供給の可能性を検討	○ターゲットを絞った営業活動 ▶工業用水需要拡大に向けた検討班会議の開催 ・受水企業の定着及び新規企業の開拓 ▶需要拡大に係る情報収集 ・新たな産業団地開発等の情報を収集し、工業用水供給の可能性を検討 ○適切な料金設定の実施 ▶<u>鬼怒工業用水道事業の料金について、算定期間満了(R8年度末)に伴う新たな料金の試算</u>
組織力の強化	栃木県企業局技術職員人材育成基本方針に基づく取組 ○人材育成 ▶職位別研修体系に基づく研修の実施 ○職員の技術力向上や業務に必要な資格取得の推進 ▶局内水道技術者研修会の開催(2月) ▶日本工業用水協会等の研修会参加及び資格取得支援(危険物取扱者等) ○デジタル技術の活用とOJTによる技術継承の推進 ▶OJTによる技術継承 ○業務に必要な人材確保 ▶再任用等職員の配置(1名) ▶採用の周知を図る取組み ・大学(6校)・工業高等学校(9校)訪問 ・技術職インターンシップの受入れ(9月)	栃木県企業局技術職員人材育成基本方針に基づく取組 ○人材育成 ▶職位別研修体系に基づく研修の実施 ○職員の技術力向上や業務に必要な資格取得の推進 ▶局内水道技術者研修会の開催 ▶日本工業用水協会等の研修会参加及び資格取得支援 ○デジタル技術の活用とOJTによる技術継承の推進 ▶OJTによる技術継承 ○業務に必要な人材確保 ▶社会人経験者の積極的な採用及び再任用等職員の計画的な配置 ▶採用の周知を図るため、以下の取組を継続 ・大学や工業系高校訪問による工業用水道事業及び水道事業の魅力等のPR ・技術職現場見学会の実施 ・技術職インターンシップ受入れ

経営方針	令和6(2024)年度の実績	令和7(2025)年度の実績予定
SDG s 達成への貢献 9 産業と技術革新の基盤をつくろう  8 働きがいも経済成長も  13 気候変動に具体的な対策を 	○環境負荷低減(温室効果ガス削減等)に貢献 ▶太陽光発電設備の新設(R6～R7) ▶資源リサイクル推進のため、浄水発生土を資源として有効利用(上・工水合計:917t)	○環境負荷低減(温室効果ガス削減等)に貢献 ▶太陽光発電設備の新設(R6～R7) ▶資源リサイクル推進のため、浄水発生土を資源として有効利用

3 総合評価

自己評価等						
1 財務面に係る評価 目標の達成状況 ・目標どおり経常利益を確保した。				(2)事業の取組実績等 ・薬品沈殿池中機械設備更新及び点検修繕工事等を適切に実施した。 ・地震発生時を想定した訓練を実施した。 ・工業用水需要拡大に向け営業活動等を着実に実施した。		評価
2 事業面に係る評価 (1)目標の達成状況 ・計画業務量及びPR件数は目標を上回り、計画外給水停止は目標どおり(0件)となった。						A
評価委員会の評価等						
【財務面】 経常利益を確保し、目標を達成した。						評価
【事業面】 年間基本供給水量、計画外給水停止件数及びPR件数のいずれも目標を達成した。						A
【取組実績】 各種工事、実践的な防災訓練等により、ハード・ソフト両面の強靱化の取組が図られているほか、需要拡大に向け営業活動を着実に実施している。						
	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	
自己評価	A	A	A	A		
評価委員会の評価	A	A	A	A		

今後の取組課題・改善点等

- ・適切な料金設定による収入の確保や効率的な工事実施等による経費削減を行い、財務基盤の強化に取り組む。
- ・安全で安心な工業用水の安定供給を図るため、計画的な設備の更新や実践的な防災訓練を実施し、ハード・ソフト両面の強靱化に取り組む。
- ・受水企業の定着促進と併せ、工業用水が見込める企業などターゲットを絞った営業活動を実施し、新規需要の開拓に取り組む。
- ・持続可能な社会の実現に向けて、工業用水道事業を通じたSDGs達成に貢献する。

○ 収支の状況

(1) 収益的収支

(単位:百万円)

			令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
収 入	料 金 収 入	計 画 額		492	491	491	491	499
		当初予算額		492	490	491	492	
		決 算 額	508	512	513	522	521	
	そ の 他 収 入	計 画 額		366	95	94	94	89
		当初予算額		365	142	141	365	
		決 算 額	288	279	139	128	345	
支 出	人 件 費	計 画 額		65	56	56	56	52
		当初予算額		65	49	65	49	
		決 算 額	35	73	38	49	45	
	減 価 償 却 費	計 画 額		222	229	230	222	234
		当初予算額		222	230	225	451	
		決 算 額	211	219	221	223	444	
	修 繕 費	計 画 額		40	27	11	46	21
		当初予算額		40	40	43	101	
		決 算 額	48	23	24	25	98	
	そ の 他 支 出	計 画 額		504	262	274	237	267
		当初予算額		502	268	269	277	
		決 算 額	400	409	255	240	220	
経 常 損 益		計 画 額		28	12	13	24	15
		当初予算額		28	45	30	▲ 21	
		決 算 額	102	67	114	113	59	
剰 余 金 残 高			629	696	810	923	982	

・平成28年度からの積み上げによる(剰余金の処分は考慮しない)。

(2) 資本的収支

(単位:百万円)

			令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
収 入	借 入 金	計 画 額		0	0	0	0	0
		当初予算額		0	0	0	0	
		決 算 額	0	0	0	0	0	
	そ の 他 収 入	計 画 額		22	0	0	0	0
		当初予算額		22	2	1	9	
		決 算 額	17	18	50	2	11	
支 出	建 設 改 良 費	計 画 額		343	47	681	92	43
		当初予算額		343	137	91	128	
		決 算 額	67	124	56	83	91	
	借 入 金 償 還 金	計 画 額		78	71	70	70	70
		当初予算額		77	92	0	91	
		決 算 額	79	77	92	90	90	
	そ の 他 支 出	計 画 額		4	0	0	0	0
		当初予算額		4	4	95	4	
		決 算 額	0	0	0	0	0	
差 引		計 画 額		▲ 403	▲ 118	▲ 751	▲ 162	▲ 114
		当初予算額		▲ 402	▲ 231	▲ 185	▲ 214	
		決 算 額	▲ 129	▲ 183	▲ 98	▲ 171	▲ 170	

借 入 金 残 高	2,146	2,069	1,977	1,887	1,797	
-----------	-------	-------	-------	-------	-------	--

○ 経営指標による経営状況

(単位: %)

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
経営資本営業利益率	決 算 値	▲ 1.97	▲ 3.45	▲ 0.32	▲ 0.32	▲ 3.95	
営業収支比率	決 算 値	81.98	72.43	96.61	98.54	65.12	
料金回収率	決 算 値	102.03	93.06	104.87	104.82	96.08	
経常収支比率	決 算 値	114.82	109.26	121.16	121.12	107.35	
流動比率	決 算 値	1,288.01	1,363.28	1,742.62	1,949.46	1579.52	
自己資本構成比率	決 算 値	87.35	87.60	88.16	88.62	74.95	
有形固定資産減価償却率	決 算 値	65.44	66.55	68.44	69.99	79.48	
管路経年化率	決 算 値	0.00	0.00	0.00	65.53	65.53	
管路更新率	決 算 値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

○ 財務面に係る目標の達成状況

(単位: 百万円)

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
毎期、経常利益を確保	決 算 値		67	114	113	59	
	評 価		A	A	A	A	

○ 事業面に係る目標の達成状況

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
計画業務量 (年間基本供給水量)	目 標 値		8,930千m ³	8,930千m ³	8,930千m ³	8,930千m ³	9,095千m ³
	実 績 値	8,940千m ³	8,948千m ³	8,948千m ³	8,984千m ³	8,974千m ³	
	評 価		A	A	A	A	
設備の故障等による 計画外給水停止件数	目 標 値		0件	0件	0件	0件	0件
	実 績 値	0件	0件	0件	0件	0件	
	評 価		A	A	A	A	
需要拡大に向けた PR活動件数	目 標 値		100件	100件	100件	100件	100件
	実 績 値		115件	148件	218件	116件	
	評 価		A	A	A	A	